





男女共同参画推進室が発行する「ナシダイ Researchers」も、
今号でVol.5を迎えることができました。

私たちは当初より、学生のみなさんが研究職に興味を持ち、
将来の職業の選択肢が少しでも増えることを願って、この冊子を作成しています。

今回も、山梨大学に所属する10人の素敵な研究者が登場します。

専門分野はさまざまですが、研究者になったきっかけや、
学生のみなさんへのメッセージなど、温かいお言葉をたくさんいただきました。
また、この「ナシダイ Researchers」では、
普段の授業や指導では見られない、先生方の「先生以外的一面」も
紹介いただいています。研究職がどのようなものなのか、
そして研究者はどのような生活を送っているのか、
楽しみにページを開いてみてください。

CONTENTS

- P02 学長よりご挨拶
- P02 室長よりご挨拶
- P03 研究者の紹介
 - P04 ・新野 貴則 (教育学部 准教授)
 - P06 ・東海林 麗香 (教育学部 准教授)
 - P08 ・小田 賢幸 (医学部 教授)
 - P10 ・瀧本 まどか (医学部 助教)
 - P12 ・北村 敏也 (工学部 准教授)
 - P14 ・福本 文代 (工学部 教授)
 - P16 ・松本 潔 (生命環境学部 准教授)
 - P18 ・矢野 美紀 (生命環境学部 准教授)
 - P20 ・孕石 泰丈 (工学部附属ものづくり教育実践センター 准教授)
 - P22 ・原 瑞穂 (キャリアセンター 教授)
 - P24 院生紹介
 - P26 推進室の取組・制度紹介
 - P28 学内紹介 保健管理センター
 - P30 ナシダイマップ (甲府キャンパス)
 - P32 ナシダイマップ (医学部キャンパス)
 - P34 山梨大学『男女共同参画の加速のための山梨大学学長行動宣言』
 - P36 編集後記

学長よりご挨拶

男女共同参画社会基本法の前文では、男女共同参画社会の実現を二十一世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付けています。山梨大学でも、この最重要課題にいっそう取り組むために、平成27年度に「男女共同参画の加速のための山梨大学学長行動宣言」を発表しました。平成28年度には、同宣言の行動計画の1つとして掲げた「山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞」を創設しました。この賞は、将来の学術研究を担う女性研究者の育成等に資するために、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者や熱心に研究に取り組んでいる若手女性研究者を顕彰するものです。

この賞をきっかけとして、新たな目標に向かって研究をさらに進め、本学から世界で活躍する次世代の研究者が育つことを願っています。

学生の皆さんも、在学中、各自の目標に向かって精進を続け、その成果をその後の人生に繋げていただきたく思います。

山梨大学長
島田 貞路



室長よりご挨拶

「男女共同参画推進室」が「女性研究者支援室」から改編されて4年目となりました。当室では、男女共同参画の視点にもとづき、性別や職種、国籍を問わず、すべての学生・教職員が充実した社会生活を送るための環境作りをめざして、各事業に取り組んでいます。

その取り組みの1つが、山梨大学の研究者をロールモデルとしてご紹介する「ナシダイResearchers」でvol.4までに37人の研究者の方々が登場してくださいました。

本号vol.5でも、多様な才能をもつ研究者が各自の研究や生活的一面を紹介しており、研究職という職業の「扉」を開けてくださっています。学生の皆さんには、本誌を通じて、様々な経験と考えをもつ身近な研究者を知ることにより、研究職に関心をもっていただけたら幸いです。

男女共同参画推進室長
山梨大学長補佐
生命環境学部教授
風間 ふたば



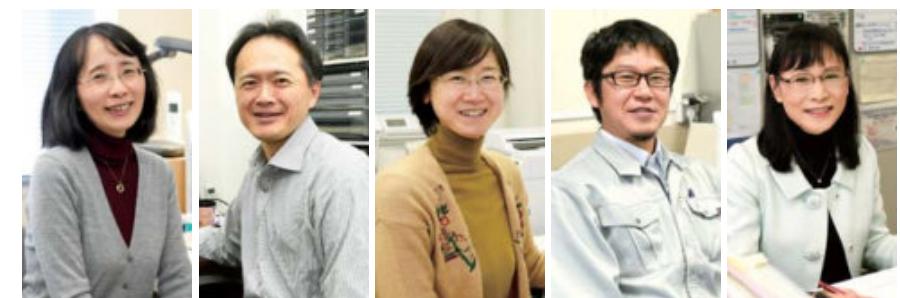
Nashidai Researchers

研究者の紹介

ナシダイで活躍する研究者たちを
Vol.5ではNo.38-No.47まで大公開。



No.38 新野 貴則 | No.39 東海林 麗香 | No.40 小田 賢幸 | No.41 瀧本 まどか | No.42 北村 敏也



No.43 福本 文代 | No.44 松本 潔 | No.45 矢野 美紀 | No.46 孕石 泰丈 | No.47 原 瑞穂



子供の学びを 丁寧に考える

Nashidai Researchers #38

教育学部 芸術身体教育コース 准教授

新野 貴則さん
Niino, Takanori

学歴 岩手大学教育学部卒業、上越教育大学大学院学校教育研究科修了、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科修了（取得学位：博士（学校教育学））

経歴 岩手大学教育学部卒業 >> 上越教育大学大学院学校教育研究科修了 >> 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科修了 >> 小国町立小国小学校非常勤講師 >> 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究官 >> 現職

私の研究内容

子供の造形表現活動の研究

小学校の図画工作科、中学校の美術科等での子供の学びの仕組みに関する理論的な研究に取り組んでいます。そもそも子供が絵を描くことで何を学ぶのか、絵を描く際に子供の感覚や記憶はどのように働くか、という課題を論理的に検討していきます。



癒しを感じるもの

根付

根付をつくりています。根付とは江戸時代のストラップのようなものです。黄楊という硬い木を彫刻刀で彫ったり、削ったりします。手のひらの中で気長にカリカリと彫り進めていると、少しづつ姿たちが現れてきます。なかなか嬉しいものです。

私の研究の特徴

研究者になったきっかけ

学生へのメッセージ

毎日私が欠かさず行うこと

朝起きたら最初にコーヒーを淹れます。まことに湯を沸かして、お湯が沸く間にお気に入りのペーパードリップの道具を揃えます。慌ただしい朝なのですが、できる限り丁寧に淹れ、ゆっくりコーヒーを楽しむようにしています。

私にとってのワークライフバランス

仕事も生活の一部ですので、仕事と生活のバランスをとるよりも、仕事も生活も楽しむようにしています。労働としてではなく、遊び心を取り入れながら創造的な事ができたらいいなと思っています。

小さなことでもちゃんと考える

理論的な研究ですから、基本的に様々な論文や文献を調べ、問い合わせに対する解を論理的に地道に組み立てていきます。その際には、当たり前のこととして疑問に思われるかもしれないようなことを丁寧に考えていくことを大事にしています。例えば、一枚の画用紙に子供が一本の線を引いたときに何が起きているのか、様々な分野の研究を手掛かりに検討していきます。

夢をあきらめたこと

恥ずかしながら10代のころは、ずっと画家になりたいと思っていました。しかし、自分自身にその才能がないことに気づきました。表現をする上での課題を頭で理解していても、実際の作品制作に結び付けることができなかったのです。「それならば」と、その課題となるものを徹底して考えてみようとしたのがきっかけでした。

学問を修めたり、研究したりすることは、試験のためにしてきた「勉強」とは異なります。自ら問いを立て、試行錯誤しながら答えを導き出します。あらかじめ問題やその答えは用意されてしまいませんから、それなりに苦しいものです。しかし、自分で意味や価値を創造することができれば、面白く、楽しい体験になります。このような体験をすることで、仕事や生活の様々な場面でも応用し、自分でやり方をつくりだしていくことができます。つまり、生き方そのものを変えていくことができます。ですから、やらされて勉強するのではなく、積極的に自ら問いを立て、考えを展開してみてください。



ここが私の研究室



理論的研究を主としていますが、研究の場は研究室だけではありません。小学校や中学校などによく出かけます。とはいえ、パソコンに向かう時間の方が長いので、気持ちよく仕事ができるよう植物をデスクやその周辺に置いています。



学校と家族を語りから研究する

Nashidai Researchers #39

教育学部 教育実践創成講座 准教授

東海林 麗香
Shouji, Reika

学歴 東京都立大学人文学部卒業
東京都立大学人文科学研究科 修士(心理学)
2002/03/25
東京都立大学人文科学研究科 博士(心理学)
2008/09/30

経歴 2012年4月より現職

私の研究内容

ナラティブ研究

ナラティブ（語り、意味づけ）に関心を持ち、インタビューやフィールドワークを行っています。専門領域は発達心理学であり、人が育つ場・との関係性として、家族と学校に関心を持っています。現在の主要な関心は家庭が厳しい状況にある児童生徒に関する、小・中・高校の教師のナラティブです。一人一人個別の先生が物の見方や考え方を育していく過程で、特に個人や組織の変化を促進したり妨げたりするのは、どんなものがあるのかという事を研究しています。



癒しを感じるもの

映画

ジャンルから選ぶことはなく、見たいものを見たい時に見るようになっています。授業など仕事で使えるものや、心理学に関するものが多いです。
【写真DVDについて】精神障害の方の療養所の話などドキュメンタリーの内容です。

私の研究の特徴

その場に足を運ぶ

フィールドワークはもちろんのこと、インタビューでも、その人の生活や仕事などの生きる現場に出向くことにしています。また、一緒に行って同じ物を見ないと指導はできないので、学生の実習にも必ず同行しています。そして、対象者となる子ども達と一緒に見て、指導にあたっています。

研究者になったきっかけ

大学で勉強したから

大学の勉強がとても楽しく、もっと勉強したいと思って大学院に進学し、さらに関心をつきつめるため研究者を目指しました。心理学が専門なので、心理学に関する事はどれも面白かったです。高校の時に精神医学の本を読んで心理学者になろうと思っていました。高校2年生の時に読んだK.A. メニンジャーの『おのれに背くもの』が面白かったです。

学生へのメッセージ

人に頼り過ぎず、人のせいにせず、自分で考え自分で決めて日々を過ごしてほしいと思います。私もこのようにありたいと思い、日々を過ごしています。

毎日私が欠かさず行うこと

自分なりにストレッチを行っています。

体が滞ると全てに支障をきたすので、休みの日や出張先でも必ず行っています。

私にとってのワークライフバランス

少なくとも2週に一度は遠出をし、家と職場から離れて過ごすことです。東京出身なので、物も文化も何でもある東京に帰る事です。東京では買い物や映画鑑賞をし、リラックスしています。



これが私の研究スタイル

フィールドノート。試行錯誤の上、いまではA5のリングノートに手書きで記入するようになりました。大きいと利便性に欠けるので、B5より一回り小さいA5サイズ位のリングノートを使っています。メーカーのこだわりは一切ありません。





細胞内の現象を 三次元的に理解する

Nashidai Researchers #40

医学部 解剖学構造生物学講座 教授

小田 賢幸さん
Oda, Toshiyuki

学歴 東京大学 教養学部理科III類修了、東京大学 医学部医学科中退、東京大学 大学院医学系研究科 博士課程修了(医学博士(東京大学))

経歴 東京大学 教養学部理科III類修了 >> 東京大学 医学部医学科中退 >> University of Texas Southwestern Medical Center 留学 >> 京都大学大学院理学系研究科 NEDO 特別講座 委託研究生 >> 日本学術振興会特別研究員(PD) >> 東京大学 大学院医学系研究科 博士課程修了 >> 東京大学大学院医学系研究科細胞生物学・解剖学講座生体構造学分野 助教 >> 山梨大学大学院 総合研究部解剖学講座構造生物学教室 教授 >> 結婚

私の研究内容

細胞内のナノワールドを探査する

クライオ電子トモグラフィーを用いた細胞小器官の三次元構造解析
緑藻クラミドモナス、線虫 *Caenorhabditis elegans*、平板動物センモウヒラムシといった、医学部では珍しい生物を使って、細胞内の現象を三次元的に理解しようとしています。



癒しを感じるもの

骨に囲まれた教授室

動物の骨格標本を収集するのが趣味ですが、今年結婚した妻からニホンザルの全身骨格標本をプレゼントされました。早速、講義で活躍しています。

私の研究の
特徴

研究者になつた
きっかけ

学生への
メッセージ

光学顕微鏡と電子顕微鏡の橋渡し

構造生物学は分子のナノ構造に特化した分野ですが、私は電子顕微鏡と遺伝学や細胞生物学、生化学の手法を組み合わせることで、マクロレベルの現象をナノ構造から解明することを目指しています。

虫捕りから解剖学へ

子供のころ、家の前が広大な林になっており、そこで虫取りに明け暮れていました。ある時、羽化に失敗したセミが飛べずにいたのを捕まえて癒着した羽を剥がしてやると、うまいこと飛んでいきました。それが私にとって生物に介入した最初の体験だったと思います。

「世界一」「史上初」という業績を成し遂げることは一般人には無理なことと思えるかもしれません、研究においては発見の1つ1つが「世界で一番早く」「科学史上初」の偉業と言えます。新しい知見を得ることに至る喜びを感じる人ならば、是非研究の世界に足を踏み入れてみましょう。生まれ持った才能が業績を左右する物理学や数学の世界と違って、生物学は根気よくデータを積み上げていく努力と根性が大事だと思います。自分は特別な才能が無いからと諂遜すること無く、好奇心を最大の武器として生命の謎に立ち向かって下さい。

私のモットー

「データに謙虚あれ」

悩んだ末にたどり着いた魅力的な仮説には拘りたくなってしまいます。生物がランダムな進化の帰結である以上、その分子機構が必ずしも「美しく」「無駄のない」ものとは限りません。仮説に反するデータが出たら、思い切って仮説を棄却するのが研究者としてあるべき姿です。

私にとってのワークライフバランス

趣味が研究なので、仕事と私生活の境界が曖昧です。解剖が趣味でもある私にとって、解剖学の講義も趣味に近いものがあります。



ここが私の研究室

研究室は緑藻、線虫、平板動物が混在する雑然とした空間になっております。全く異なる動物を扱う研究者が一堂に会しているので、良い刺激になっているのではないでしょうか。



夜間頻尿看護で高齢者に笑顔を

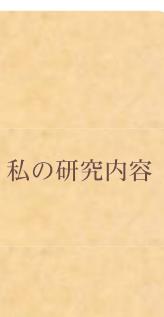
Nashidai Researchers #41

医学部 健康・生活支援看護学講座 助教

瀧本 まどか
さん
Takimoto, Madoka

学歴 山梨医科大学（現 山梨大学）医学部看護学科 卒業
山梨大学大学院総合教育部 修士課程修了
(取得学位：修士 看護学)

経歴 山梨医科大学看護学科卒業 >> 昭和大学病院 耳鼻咽喉科・消化器内科・放射線科病棟 勤務 >> 結婚 >> 山梨厚生病院 内科病棟勤務 >> 第一子誕生 >> 山梨大学大学院総合教育部修士課程 入学 >> 第二子誕生 >> 山梨大学大学院総合教育部看護学専攻修士課程修了 >> 公益社団法人山梨県看護協会 教育部 勤務 >> 第三子誕生 >> 山梨県立大学 基礎看護学 非常勤実習助手・山梨大学 高齢者・在宅看護学領域 非常勤講師・看護小規模多機能型居宅介護事業所 非常勤職員 訪問看護 通所看護 兼務 >> 現職



夜間頻尿の看護ケア

夜間頻尿は加齢とともに増加し、睡眠障害や QOL、転倒、骨折、死亡率の増加との関連が明らかになっていますが、効果的なケアが提供されていないのが現状です。年のせい、仕方ないと諦めている高齢者に対し、多職種と連携して看護介入で夜間頻尿を改善し、笑顔を増やしたいと思っています。



癒しを感じるもの

子どもの乳幼児期の写真

子どもが乳幼児だったころの写真を眺め、そのころの何とも言えない幸福感を感じ出し、癒されています。腕の中に収まり、抱きしめられた頃が愛おしく、懐かしさもあり、今の子どもの成長を感じ、自分の果たすべき役割を再確認。

健康のためにしていること走ること。たまに夫と公園を5キロほど走ったりしています。年に5回ほど親子マラソンに参加したり、県内のロードレースに参加しています。

私の研究の特徴

研究者になったきっかけ

学生へのメッセージ

私のモットー

夜間頻尿看護ケアのプロフェッショナルになる！

日本でも海外でも夜間頻尿看護に取り組んでいる研究者は少ないです。また、世界で類を見ない超高齢社会の日本だからこそできる研究だと思います。山梨発の夜間頻尿スタンダードケアが確立できるように一つ一つエビデンスを積み上げていきたいと思っています。

新たな看護を創造したい

幼い頃から調べることが好きです。小学生の時に民話を調べる授業で、他校の校長先生が詳しいと小耳にはさむと、勝手に電話をして、バスを乗り継ぎ聞きに行ったりしていました。臨床で働く中で、健康や生活上の問題を抱えている方はたくさんおり、もっと根本的な所を見つめ、ケアの質を高める看護研究の必要性を感じました。出産を機に退職して、第1子の子育て中に、もっと学びを深めようと思い修士課程に入学しました。その後、看護協会に勤め、そこで出会った縁で大学の実習助手をして、看護教育の大切さや魅力を知りました。その後、恩師から本学の非常勤講師を誘われ、そこで今の上司にあたる谷口先生に出会い、実践と研究ができる先生の元で働きたい、研究がしたいと思ったのがきっかけです。

日々疑問を持ってほしいです。目に見えていることが本当にどうか、なぜこうなるのだろう、もしも〇〇だったらどうだろう？
??が新たな研究、発見につながります。もっと??をもって、学生同士語り合ってください。看護は、人がいるところに必ず存在します。
宇宙看護も必要になる時が必ずきます。今ある看護から、これからのかの看護を創造していましょう。私と一緒に研究してくれる仲間をお待ちしています。

私にとってのワークライフバランス

塞翁が馬（さいおうがうま：人生における幸不幸は予測しがたいということ。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではないといったとえ）どんなにつらいことでも「あの時があったから今の自分がいる」と思える日が必ず来る。これは患者さん。両親の闘病する姿から学ばせていただいたことです。



ここが私の研究室

期限が迫るものがある時は、自分の中で「研究日」を作り、その日は家族に残業デーとして「遅くなる」宣言をします。いろんな仕事の事や雑念で集中できない時は、マインドフルネスを10分間行い、頭をリセットしてから行います。眺めも良く静かな環境で研究する上で、とても恵まれていると思います。





気になる音を、 気にならない音に

Nashidai Researchers #42

工学部 情報メカトロニクス工学科 准教授

北村 敏也さん
Kitamura, Toshiya

学歴 山梨大学精密工学科卒業、山梨大学大学院工学研究科修士課程修了、(取得学位:博士(工学)北海道大学)

経歴 山梨大学精密工学科卒業 >> 山梨大学大学院工学研究科修士課程修了 >> 国立木更津工業高等専門学校助手 >> 山梨大学工学部助手 >> 結婚 >> 第一子誕生 >> 北海道大学にて論文により学位取得 >> 現職 >> 第二子誕生

私の研究内容

騒音の研究／身の回りの音環境を快適に！

掃除機がゴミを吸う際に大きな音を出すように、私たちの身の回りの機械類はその機能を発揮する際に不要な音も出します。そのような不要な音を静かに、そして人に気にならない音に変える（快音化）ために、旧来の技術に加え新しいデジタル技術等を駆使した技術の開発に関する研究をしています。



癒しを感じるもの

読書

ここ数年読書に力が入っています。高校生の頃はSFや推理小説を大量に読んでいましたが、大学入学以降ご無沙汰になっていました。子供に本を勧めるのをきっかけに読書を再開し、いつも文庫本を携行するようにしています。

私の研究の特徴

研究者になったきっかけ

学生へのメッセージ

私のモットー

仕組みを想像する。
そしてそこに足りないものを考える。

初めて見る機械に出会うと、まずその機械を観察してその仕組みを想像します。そしてその機械の特徴と工夫を考えると同時にその弱点や足りないものを考えます。そして那次に出現するものを想像するのです。

特に低い音、空気流れによる音

人の声くらいの高さの騒音は旧来の技術で比較的容易に対策することができますが、低い音は物理的な特性から対策することが簡単ではありません。特にその低い音を研究対象としています。また比較的新しく音の発生原因として明らかとなった空気流れによる音について研究していることも、私の研究の特徴です。

小さいころからものづくりが好きでした

私が生まれたころには亡くなっていた祖父は、大工の棟梁でした。そのため家には大工道具や木材の切れ端がたくさん残されていて、その木を切り釘を打って工作をすることが好きでした。そのうち色々な仕組みを考えたり設計図を書いたりするようになり、転じて今の職業になりました。



私にとってのワークライフバランス

仕事で出会う人も家族も尊重することに心がけています。そうすることで家族一人一人を大切にし、家族と過ごす時間も確保することも家庭の中の役割分担も担うことができています。



ここが私の研究室

騒音を取り扱うので、騒音が出ている現場での測定が多くなります。音は空間を広げるため実験には大きな空間が必要ですが大学は狭すぎるので、最近ではコンピュータの中でシミュレーションして空間の狭さを補っています。



言葉の背後が 理解できる 計算機を作る

Nashidai Researchers #43

工学部 コンピュータ理工学科 教授

福本 文代
さん
Fukumoto, Fumiyo

学歴 学習院大学理学部数学科卒業、マンチェスター工科大学大学院計算言語学専攻修士課程修了、理学博士(東京大学大学院理学系研究科)

経歴 学習院大学理学部数学科卒業、沖電気工業株式会社勤務、新世代コンピュータ技術開発機構出向、留学、マンチェスター工科大学大学院計算言語学専攻修士課程修了、帰国後、現職、現在に至る。

私の研究内容

人に寄り添う計算機を作る

人工知能研究と大規模ビッグデータ解析の進展により、計算機が人の言葉を理解することができるようになりました。例えば、計算機に“東京”-“日本”=“パリ”-“X”を入力すると、Xがフランスであることが瞬時に回答できるようになりました。しかし、依然として文章の深い理解、すなわち文書の背後にある書き手の意図や考え方を理解するまでには至っていません。私の研究のゴールは人に寄り添う計算機を作ることです。そのための一歩として、先ず人が作成した文章の内容を計算機が正確に理解するために必要な知識と計算モデルを構築する研究を行っています。



癒しを感じるもの

写生画

母が遺した膨大な量の写生画を眺めることが癒しの一つになっています。その時々、何を考えて何を伝えようとしていたのか絵画から解き明かすことは、言葉以上に困難であると感じていますが、言葉の理解と同様、絵画を理解することは私の研究テーマかもしれません。時間をかけて解読していきたいと思っています。



私の研究の特徴

文章を読み理解することを繰り返す

文章の内容を計算機に理解させるためには、先ず私自身がどのような知識をどのように利用してどのように理解しているのかを明らかにした上で、それらを計算機で処理するために形式化する必要があります。ところが実際に言葉を分析するとすぐにわかりますが、言葉は例外の塊ですので、形式化が一筋縄ではいかないという問題に直面します。形式化・テスト・評価の繰り返し、日々泥作業が続いている。

研究者になったきっかけ

文章を読み解く楽しさ

研究者になり大学で働くようになったきっかけは、大学院修士課程のときの指導教員との出会いがあったからと考えます。「福本さんは、日々データを眺めて考えることが好き？僕は、この泥作業、本当に嫌いですか。嫌になるよ」と話しながら、その言葉と裏腹に楽しそうに研究している姿に強い影響を受け、「この人を追いかけよう」と思ったのがきっかけです。

学生へのメッセージ

大学は社会に出る前の最後の教育の場でもあることから、大学時代のいろいろな人との出会いは、その後の生き方、過ごし方に影響を与えることがあります。少なからずあると思います。ぜひ自分からいろいろな人の関わり合いを持つよう、行動してみてください。

毎日私が欠かさず行うこと

特別なことがない限り、基本的に食事は自分で作ります。もともと食べることが大好きであること、山梨には美味しい食材がたくさんあるので、作って食べることを楽しんでいます。

私にとってのワークライフバランス

これは仕事、これは私生活、と敢えて意識しないことを心掛けています。メリハリがないことは欠点かもしれません、私にとっては意識しないことが逆に大いにストレス軽減につながっていると感じています。



ここが私の研究室

私の研究室は、学生さんの居室2部屋、私の居室とゼミ室からなります。私の居室には、敢えて打ち合わせテーブルは置かず、ゼミ室を設けることでできるだけ複数の学生さん達との共同の話し合いの場を持つようにしています。

